

# 甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（後期）

平成22年2月13日 作成

校長 相川 芳廣

記述者 職名（教頭） 古屋 宗久

## 学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び，よく考える子ども（自分の考えを持って）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（相手の立場を考えて）
  - ・進んで働く子ども（働く喜びを持って）
  - ・あいさつのできる子ども（気持ちよいあいさつを，進んで）
- 体育 ・健康で元気な子ども（生活の中に，運動習慣を）

## 学校経営方針

・今まで培った伝統と地域の特性や子どもの実態を踏まえ，特色ある教育課程を編成し，教職員の共通理解と，家庭・地域との連携の下，ゆとりと創意ある教育活動の推進に努め，21世紀をたくましく生きる力を持った，人間性豊かな子どもの育成を図る。

## 1 全体評価

### 【教職員の自己評価から】

・前期同様ほとんどの項目でAないしB評価であり，C評価がついたのはⅡ②「危機管理マニュアルを理解している」Ⅲ⑤「評価基準方法を明確にした授業」Ⅲ⑦「質問や発言が出てくる授業」Ⅴ⑧「評議員制度，評価委員会が活かされている」の4項目だけであった。前期においてはC評価が12項目あったので，数値の上では改善されたと言える。

・A評価が10ポイント以上向上した項目数は，全51項目中35項目あり，反対にA評価が10ポイント下がったのは，Ⅲ⑩「年間計画に基づいた授業時数を確保する」1項目だけであった。

○以上のことから，教育課程に基づく地道な教育活動の実践から，教師自身はしっかりとした成果をあげていると考えている。反面，各教科の時数をバランスよく確保し確実に実施していくことに困難さを感じている。

### 【児童アンケートから】

・児童のアンケート結果については，おおむね前期と同様の結果であった。

・A評価が+5ポイント以上変化した項目は，②「仲良く遊ぶ友達がいる」+6，⑧「先生は授業中興味ある話をしてくれる」+16，24①音楽発表会をがんばった」+5の3項目であった。反対に-5ポイント以上変化したのは，⑨「相談できる先生がいるか」-8，⑪「発言や意見を言うか」-6，⑳「決まりや約束事が守られているか」-5，㉓「委員会活動に取り組んでいるか」-5の4項目であった。

○決まりを守る態度や規範意識を育てるような指導の充実が必要といえる。

### 【保護者アンケートから】

・昨年度と比較して著しい変化はみられなく，相対的にB評価が多い。

・A評価が+5ポイント以上変化した項目は，①「学校は楽しいところ」+8，②「仲のよい友達を知っている」+7，㉓「子どもは本を読むのが好き」+6の3項目であった。反対に-5ポイント以上変化したものは，⑩「挨拶をするよう言う」-6，㉑「学校は音楽発表会に力を入れている」-9の2項目であった。

・C評価D評価を合わせて50ポイント以上である項目は，⑬「家庭で自主学習しているか」⑱「学校評議員制度を知っているか」の2項目であった。

○家庭での学習方法を知らせることや学校評議員制度を広く知らせることを工夫する必要がある。

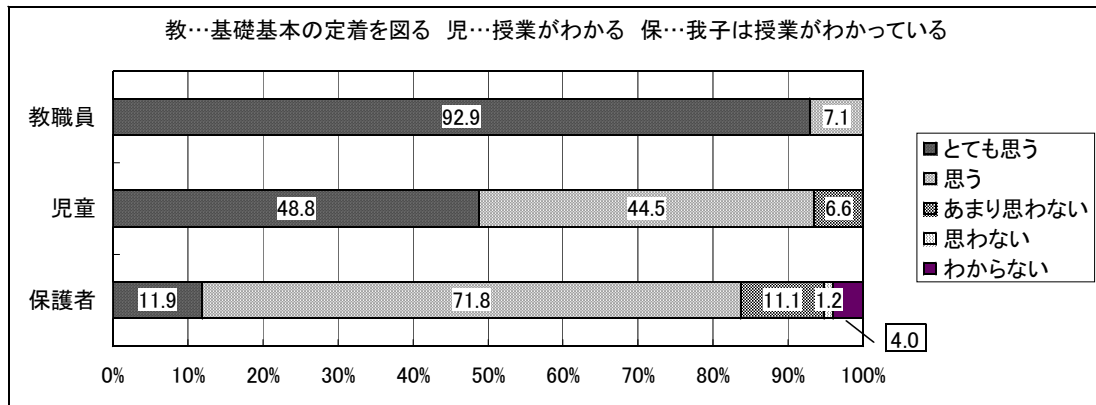
## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について      II 学校運営について

達成状況  
 ・2学期を迎えるにあたって、学校長より学校教育目標の見直しの提案が行われた。本校の実態を踏まえた上での提案で、校長の経営方針のもと後期に向けて具体的な取組の見通しがもてた。  
 ・前期と比べてA評価の比率が伸び、C評価の項目も無くなった。「十分達成できている」もしくは「おおむね達成できている」状態で、大きな課題点は見受けられなかった。

### III 学習指導について（児童用・保護者用アンケートも含めて）

達成状況  
 ・学習指導において当然のことであるが、教職員は学習内容の定着を図るために様々な工夫をし、努力をしている。また、全員がその自覚をもっている。児童の93%は授業が分かると言っているが、約7%は授業があまりわからないと答え、保護者の約12%が子どもは授業があまり分かっていないと回答している。（グラフ1参照）  
 [グラフ1]

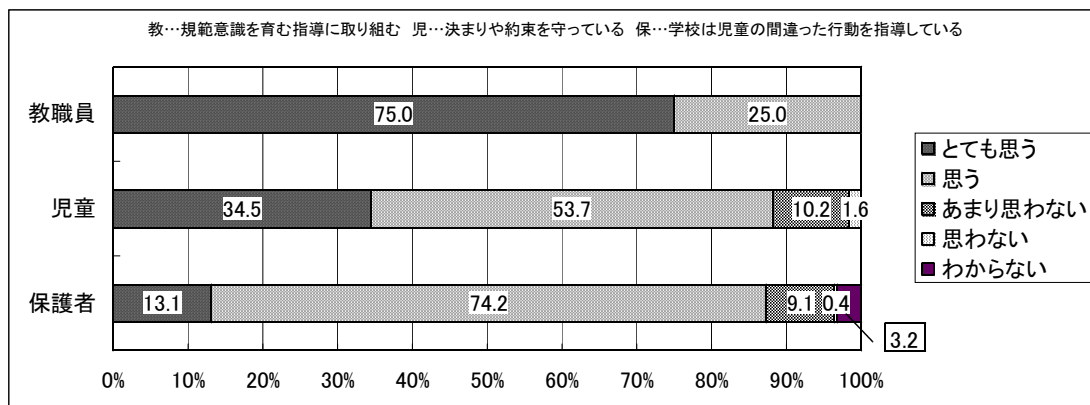


改善策  
 ・教えるべきことは、きちんと教え、繰り返しの指導で基礎基本の定着を図る。また、夏休み中のサマースクールの持ち方を工夫し、1学期の復習や子ども達の学びの意欲を喚起するような学習内容にするようなことも考えていきたい。

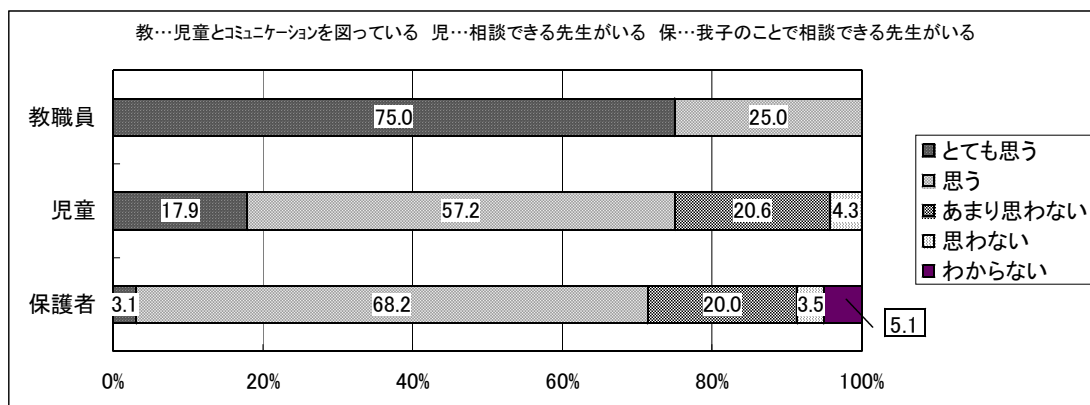
### IV 生徒指導について（児童用・保護者用アンケートも含めて）

達成状況  
 ・教職員の自己評価では、生徒指導の全項目でA評価+B評価が100%を示しており、前期と比較してもA評価の割合が10ポイント~20ポイント増えている。  
 ・生徒指導校内委員会や特別支援教育校内委員会を定期的に関き、情報交換を行った結果共通理解が図られ、同じ歩調で指導できたことが効果的であった。  
 ・グラフ2からは、教職員は積極的に規範意識を育む取組を行っているが、児童の12%が「決まりや約束を守れない」と回答しており、保護者の約10%が「学校は児童の間違った行動を指導していない」と答えている。  
 ・グラフ3を見ると、教職員は積極的に児童とのコミュニケーションを行い、児童理解を図っているが、児童の25%と保護者の23%は「相談できる先生がない」と答えている。

[グラフ 2]



[グラフ 3]



改  
善  
策

- ・規範意識に関して、教師の指導方法を変えていく必要がある。規範意識を育むために、家庭内での保護者間、学校内の教職員間又は保護者と教職員間での共通理解が持たれ、それぞれが、共通の目的に向かって指導方針に「ぶれ」が生じることがないようにする。PTAの会議や懇談会等を通して保護者にも伝えていく。
- ・児童との関わり方を見直す必要がある。教職員は、積極的に子ども達とコミュニケーションを図っていると思っても、それが、示唆的・指導的なものであったり、内容を伴わない軽い会話だったりした場合は、相談相手として信頼がおける教職員にはなれないであろう。常に児童一人一人のことを親身に考え、目配り気配りをし、子ども達に頼りにされる存在になるよう努力する。保護者に対しては、連絡帳やおたより、こまめな電話連絡、時には家庭訪問を行うなど日頃から意志の疎通を図っていく。

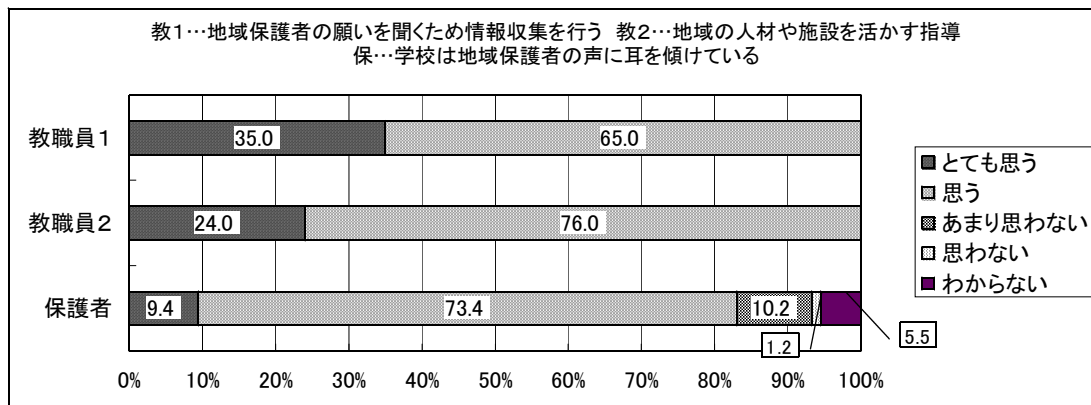
V 地域との連携について (保護者用アンケートも含めて)

- ・地域との連携の項目では、前期C評価が4項目あった。後期は1項目に減り、全9項目中7項目でA評価が10ポイント以上向上した。特にPTA活動の項目では、A評価が94%であり、充実したPTA活動が行われた結果と言える。
- ・グラフ4から、教職員は「地域保護者の願いを聞くため情報収集を行う」がA評価35% B評価65%という結果であった。保護者の項目「学校は地域・保護者の声に耳を傾けている」は、A評価9.4% B評価73.4%でCD評価は、11.4%であった。

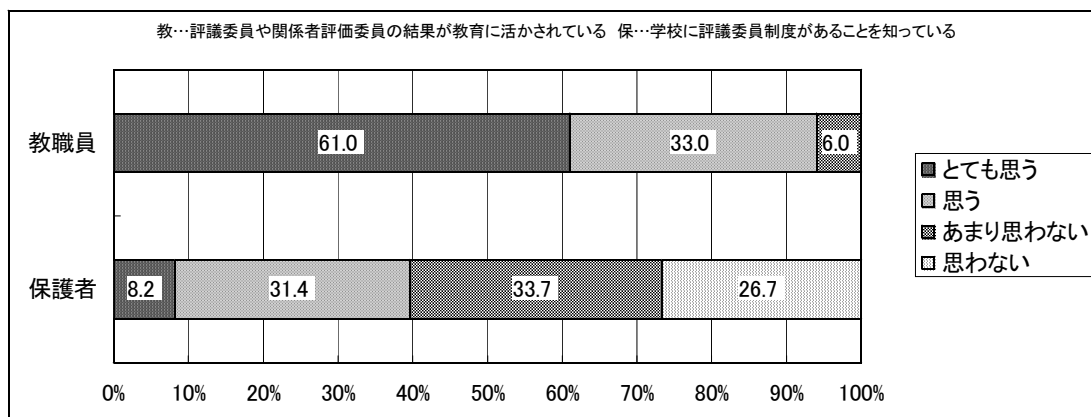
・グラフ5を見ると、保護者の学校評議員制度に対する認知度が低いことが分かる。教職員に関しては、学校評価の結果が学校教育に活かされていると言える。

達  
成  
状  
況

[グラフ4]



[グラフ5]



改  
善  
策

- ・引き続き学校支援ボランティアの募集を行い、総合的な学習の時間や生活科の中でゲストティーチャーとして授業のお手伝いをお願いします。
- ・地区懇談会やPTAの会議、学年部会や家庭訪問、個別懇談などあらゆる機会で見守りや地域の意見を聞く。
- ・職員会議や打合せの時間を使って、学校評議員委員会での話題や課題などを職員に知らせる。
- ・学校だよりやホームページを使って、学校評議員委員会の内容や活動を地域や保護者に知らせる。また、親しみを持てるように内容をさらに工夫する。

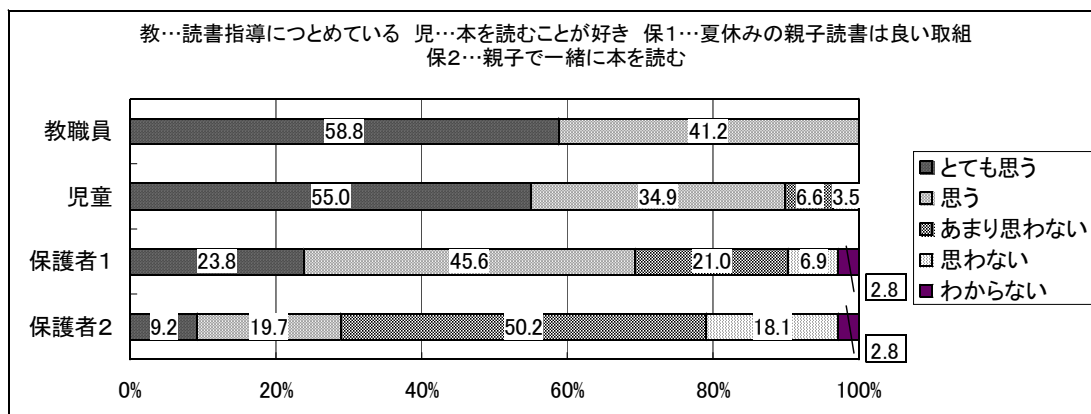
VI 学校の特色に関して (児童用・保護者用アンケートも含めて)

達  
成  
状  
況

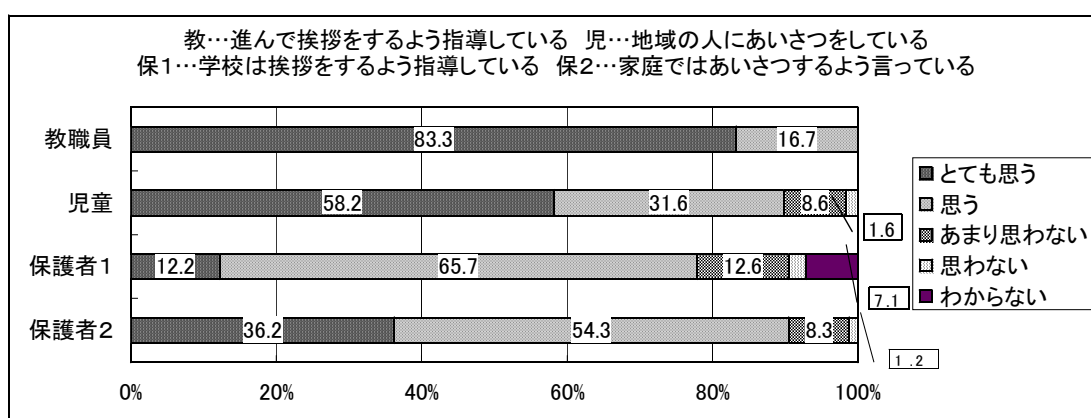
- ・読書活動に関して教師は、読書指導を積極的に行っている。児童の読書に対する気持ちも前向きで9割の子は、「読書が好き」と答えている。
- ・グラフ6より、保護者の約3割が夏休み中の親子読書の取組に否定的である。また、約7割の家庭が親子で一緒に本を読むことが少ないと答えている。
- ・グラフ7より、学校でのあいさつ指導が保護者に十分理解されていない。児童の約90%は地域の人にあいさつをしていると答えている。

[グラフ 6]

状  
況



[グラフ 7]



改善策

- ・ P T A の会議や懇談会などを使い、読書活動に対する学校の指導方針や活動内容などを知らせる。
- ・ 図書日より等の一部を使い、保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。
- ・ あいさつに関しては、大分改善されてきたので、引き続き大人が見本となるようあいさつ声かけ等を地域保護者と共に協力して行っていく。

### 3 まとめ

〈成 果〉

- ・ 前期の評価を受けて、P D C A サイクルにのっとり C D 評価のついたものを中心に具体的な改善策を立てた。それを意識し教育活動を展開していった結果、多少なりとも成果をあげることができた。一例をあげると「教育目標の見直し」「生徒指導上の共通理解の向上」「児童のあいさつに対する意識の向上」などである。

〈課 題〉

- ・ 学校教育において教師と保護者の共通の目標は「児童の健全育成」である。それにもかかわらず「読書活動」「親子読書」「あいさつ」など必ずしも意識は一致していない。学校が行う様々な取組の意味や方法を保護者に対して丁寧に説明する必要がある。
- ・ 学校ホームページや「学校、学年便り」等各種たよりで学校からの情報量は、確実に増えている。しかし、実際に保護者や地域が欲しい情報を発信してきたのかも一度検討していきたい。